

# 安全データシート

## 【1. 製品及び会社情報】

**製品名** : **ピットクリーナー**

会社名 : 株式会社MonotaRO  
所在地 : 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階  
担当部門 : 商品お問合せ窓口  
電話番号 : 0120-443-509  
FAX番号 : 0120-289-888  
緊急連絡先 : 所在地と同じ  
整理番号 : M220317

推奨用途及び使用上の制限 : 鉄、ステンレス、プラスチック、ガラス、陶磁器、コンクリートなどの床・壁用洗浄剤【業務用】

## 【2. 危険有害性の要約】

GHS分類  
物理化学的危険性 : 分類基準に該当しない  
健康に対する有害性  
急性毒性(経口) :  
急性毒性(経皮) :  
急性毒性(吸入・蒸気) :  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1  
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : 区分1  
呼吸器感作性 :  
皮膚感作性 :  
生殖細胞変異原性 :  
発がん性 :  
生殖毒性 :  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) :  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) :  
誤えん有害性 :  
環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期(急性) :  
水生環境有害性 慢性(長期間) :  
オゾン層への有害性 :

※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

絵表示またはシンボル :



注意喚起語 : **危険**  
危険有害性情報 : 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

## 注意書き

- 【予防策】 : 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
粉じんまたはミストを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。
- 【対応】 : 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。  
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。
- 【保管】 : 施錠して保管すること。
- 【廃棄】 : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

## 【3. 組成、成分情報】

単一化学物質・混合物の区別 : 混合物

## 組成及び含有量

化学名又は一般名	含有率 (重量%)	CAS番号	化審法 官報公示 整理番号	化管法 (PRTR)	安衛法 通知対象物 政令番号
ポリ(オキシアルキレン)＝アルキルエーテル	非公開	非公開	非公開	—	—
グリコールエーテル	非公開	非公開	非公開	—	—
水酸化ナトリウム	1.0未満	1310-73-2	(1)-410	—	319*
キレート剤	非公開	非公開	非公開	—	—
有機酸	非公開	非公開	非公開	—	—
水	残部	7732-18-5	—	—	—

—:該当しない

\*:対象となる濃度下限値(裾切値)未満のため該当しない

## 【4. 応急措置】

- 吸入した場合 : 使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にすること。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 水でよく洗い流すこと。  
強アルカリ性の製品なので、石鹼を用いず微温湯を流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続けること。1時間以上を要することがある。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 目を擦らず直ちに清浄な水で15分間以上眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受けること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまでよく洗浄すること。  
この製品が眼に入った場合、一刻も早く洗浄を始め、入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1-2杯の水又は牛乳を飲ませ、無理に吐かせないで直ちに医師の診断を受けること。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

## 【5. 火災時の措置】

- 消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 特有の危険有害性 : 情報なし
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

## 【6. 漏出時の措置】

- 人体に対する注意事項、  
保護具および緊急時措置 : 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。  
漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
- 除去方法 : 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。  
大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。  
漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。  
回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

## 【7. 取扱い及び保管上の注意】

- 取扱い  
技術的対策 : 取扱いの都度、容器を密閉すること。  
眼、皮膚、衣類に付けないこと。  
ゴム手袋及び保護眼鏡を着用すること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。
- 局所排気・全体換気  
注意事項 : 取扱う場合は、屋外または全体換気の設備のある場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項 : みだりにエアロゾルが発生しないように取扱う。  
アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。  
アルミニウム、錫、亜鉛などの金属を腐食し、水素ガスを発生するため、これらの金属との接触を避ける。  
容器を転倒、落下させ、衝撃を与え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
- 保管  
適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。  
施錠して保管すること。  
酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。  
冷却すると凝固するので、冬季には温度降下に注意する。
- 安全な容器包装材料 : 開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめること。  
他の容器に移し替えて保管しないこと。

## 【8. ばく露防止及び保護措置】

- 管理濃度 : 設定されていない

## 許容濃度

日本産業衛生学会	: 2 mg/m <sup>3</sup> (最大値)【水酸化ナトリウム】
ACGIH	: STEL 2 mg/m <sup>3</sup> (上限値)【水酸化ナトリウム】

## 設備対策

: 取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

## 保護具

呼吸器の保護具	: 必要に応じて保護マスクを使用する。
手の保護具	: 耐アルカリ手袋を使用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(側板付き又はゴーグル型)を使用する。
皮膚及び身体の保護具	: 耐油耐薬品性の保護前掛け、長靴を使用する。

## 【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: わずかに特異臭
融点／凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: データなし
可燃性	: 不燃性
爆発限界及び爆発上限界 ／可燃限界	: データなし
引火点	: 引火性なし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH(原液)	: 13.0(代表値)
動粘性率(25 °C)	: データなし
溶解度	: 水と任意の割合で混合する。
n-オクタノール／水分分配係数	: 該当しない
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度(25 °C)	: 1.03(代表値)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当しない

## 【10. 安定性及び反応性】

化学的安定性	: 通常の条件では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 高温(40 °C以上)になる場所、直射日光の当たる場所、凍結のおそれのある場所で保管しない。
混触危険物質	: ハロゲン類、強酸類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	: 現在のところ有用な情報なし。

## 【11. 有害性情報】

急性毒性	
経口	: ▽グリコールエーテルの経口急性毒性はメーカーのSDSより4,300 mg/kg。

▽キレート剤は、List 1のデータとして5件のラットのLD50値(2700、3200、1700、1780-1913、1210-2150mg/kg)(EU-RAR(2004))が対象となり、2件が【区分4】、2件が【区分外】(国連分類基準の【区分5】)、1件が【区分4】または【区分5】に該当し、【区分4】と【区分外】が同数となったため、危険性の高い方の【区分4】を採用。

▽以上のデータより、本製品としての急性経口毒性推定値(ATE)は5,000 mg/kgを超えるため【分類できない】とした。

皮膚腐食性/刺激性	: 水酸化ナトリウムは【区分1】に分類されており含有率が1.0%未満のため、【分類できない】となるが、液のpHが11.0以上のため、【区分1】とした。
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	: 水酸化ナトリウムは【区分1】に分類されており含有率が1.0%未満のため、グリコールエーテルの【区分2B】と併せて【区分2】の判定基準「 $10 \times (\text{皮膚区分1} + \text{眼区分1}) + \text{眼区分2A/2B} \geq 10\%$ 」を満たすことから【区分2】となるが、液のpHが11.0以上のため、【区分1】とした。
呼吸器感作性 又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 水酸化ナトリウムは【区分1】(呼吸器系)に分類されているが、含有率が1.0%未満であるため、どの区分にも該当しない。また、キレート剤は【区分2】(全身毒性)に分類されているが、含有率が【区分2】のカットオフ値未満であったため、【分類できない】とした。
誤えん有害性	: 情報なし

## 【12. 環境影響情報】

### 生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性)	: キレート剤は【区分2】、水酸化ナトリウムは【区分3】に分類されているが、キレート剤の含有率が【区分2】のカットオフ値(25%)以下であり、【区分3】の判定基準「 $(\text{毒性乗率} M \times 100 \times \text{区分1}) + (10 \times \text{区分2}) + \text{区分3} > 25\%$ 」にも該当しないため【分類できない】とした。
水生環境有害性 慢性 (長期間)	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし
他の有害影響	: COD = 630 mg/L(1%希釈液), BOD = 360 mg/L(1%希釈液)

## 【13. 廃棄上の注意】

### 残余廃棄物

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 【14. 輸送上の注意】

### 国際規制

国連分類	: クラス8: 腐食性物質
国連番号	: UN1760
品名(国連輸送名)	: その他の腐食性物質(液体)(他の危険性を有しないもの)
容器等級	: II

国内規制	
陸上輸送	: 消防法・労働安全衛生法・毒劇物取締法に該当する場合は、それぞれ定められた輸送方法に従う。
海上輸送	: 船舶安全法に定められた輸送方法に従う。
航空輸送	: 航空法に定められた輸送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 直射日光・高温多湿・氷点下での保管を避ける。
緊急時応急措置指針番号	: 154

## 【15. 適用法令】

化学物質排出把握管理促進法 (平成21年10月1日施行)	: 非該当
労働安全衛生法	
危険物	: 非該当
有機溶剤中毒予防規則	: 非該当
名称等を表示すべき危険物 及び有害物 (令和3年1月1日施行)	: 非該当
名称等を通知すべき危険物 及び有害物 (令和3年1月1日施行)	: 非該当
毒物及び劇物取締法 (令和4年2月1日施行)	: 非該当
消防法	: 非該当
船舶安全法	: 危険物[品名:その他の腐食性物質(液体)(他の危険性を有しないもの)、分類:腐食性物質、等級:8][危険物船舶運送及び貯蔵規則]
航空法	: 危険物[分類:腐食性物質、区分:8]
廃棄物処理法	: 特別管理産業廃棄物(廃アルカリ)

## 【16. その他】

## 参考文献

原料メーカーSDS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」データベース(CHRIP)

厚生労働省 職場のあんぜんサイト「GHS対応モデルSDS」

## 改訂情報

2011年1月5日(第1版)	: 初版発行
2011年6月9日(第2版)	: 環境影響情報(BOD値、COD値)追記、GHS分類変更
2014年11月5日(第3版)	: 住所変更
2015年2月27日(第4版)	: SDSへ改訂(JIS Z 7253 準拠)
2016年5月30日(第5版)	: 労働安全衛生法改正(平成28年6月1日)による改訂
2017年3月8日(第6版)	: 労働安全衛生法改正(平成29年3月1日)による改訂
2020年5月27日(第7版)	: 労働安全衛生法改正(平成30年7月1日施行)および毒物及び劇物取締法改正(令和元年7月1日施行)による改訂
2021年5月25日(第8版)	: 労働安全衛生法改正(令和3年1月1日施行)および毒物及び劇物取締法改正(令和2年7月1日施行)、日本工業規格の改正(JIS Z 7252:2019 および JIS Z 7253:2019)による改訂

2022年3月16日(第9版) : 労働安全衛生法改正(令和3年1月1日施行)および毒物及び劇物取締法改正(令和4年2月1日施行)による改訂

#### 記載内容の取扱い

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。また、記載内容は新しい知見などにより予告なく改訂することがあります。

記載内容の問合せ先 : 株式会社MonotaRO 商品お問合せ窓口  
電話番号 0120-443-509  
FAX番号 0120-289-888